

# 令和元年度 事業報告書

## 2019 LEAF



鹿児島県奄美パーク

# 目次

第1	鹿児島県奄美パーク概要	1
第2	令和元年度の事業実績について	2
第3	奄美の郷企画事業	3
1	季節感（年中行事）を取り入れたイベント	3
(1)	第13回奄美パークわらべシマ唄大会	
(2)	あまみっ子フェスタ	
(3)	ネリヤカナヤフェスタ	
(4)	奄美パーク夏まつり シマジマだより～沖永良部島～	
(5)	サマーコンサート	
(6)	フユウンメコンサート	
(7)	初春唄あしび	
(8)	奄美パーク新春寄席	
(9)	奄美パーク春まつり～サンガツサンチ～ ※	
2	奄美の郷ライブステージ	12
(1)	あまみのさと うたと舞のステージ	
(2)	奄美の郷ライブステージ「ディ！ま～じん島ショー」	
(3)	奄美の郷ライブステージ「昭和歌謡祭」	
(4)	奄美の郷ライブステージ 奄美大島の伝統文化	
(5)	奄美パークパフォーマンスバトル2020	
3	文化講演会 前園真聖氏「サッカーから学んだ人生」	16
4	わきゃステージ in パーク事業	16
(1)	わらべんきゃぬシマ唄（主催：あやまる会）	
(2)	第10弾 島んちゅ会 でい・まーじんま！（主催：島んちゅ会）	
(3)	民謡民舞奄美連合大会予選会（主催：日本民謡協会奄美連合会）	
(4)	2019 奄美 美の競演（主催：美の競演実行委員会）	
(5)	第31回 大笠利わらぶえ島唄クラブ定期発表会（主催：大笠利わらぶえ島唄クラブ）	
(6)	豊楽器製造バンド奄美ツアー2020（主催：楠田哲）	
(7)	ならびや歌謡ショー 春の歌謡祭（主催：ならびや歌謡グループ）※	
(8)	スプリングコンサート（主催：アマービレ吹奏楽団）※	
(9)	第9回龍郷町キットハレ芸能祭（主催：龍郷町懐メロ同好会）※	
5	その他自主事業及び共催事業	21
(1)	奄美パーク de あそぼうディ！	
(2)	W.P.A. ウォーターパーティー！ in 奄美パーク	
(3)	奄美パークハロウィンイベント	
(4)	文化の日イベント	
(5)	奄美パーククリスマスツリー点灯式	
(6)	第13回奄美パーク子どもクリスマス会	
(7)	入館者250万人達成イベント	
(8)	けんむんクイズラリー	
(9)	ぱーくまをさがせ！	

第4	田中一村記念美術館企画事業	29
1	奄美関連作家展及び招待作家展	29
	(1) 松本零土&牧美也子の世界展	
	(2) 写真展 一写入魂 加川家三代でみる徳之島の肖像展	
	(3) パリ・奄美 吉村英彦絵画展	
2	第66回県美展―奄美関連作家一展	31
3	第9回田中一村記念スケッチコンクール作品展	31
4	第18回奄美を描く美術展	32
	(1) 本展	
	(2) 巡回展	
	(3) 入選・入賞作品	
5	その他企画展	39
	(1) 田中一村の写生展	
	(2) 龍郷町立小・中学校図画工作・美術科学習発表展	
	(3) 第70回鹿児島県図画作品(特別賞)展	
6	創作体験教室ほか	41
	(1) 田中一村の美の世界	
	(2) 創作体験教室「奄美を描こう」	
	(3) 夏休み子どもワークショップ 万華鏡をつくろう	
	(4) 夏休み親子 草木染め体験	
	(5) もっと知りたい田中一村鑑賞会	
	(6) 子ども美術館バックヤードツアー&鑑賞会	
	(7) 創作体験教室 人物画講座	
第5	各種イベント・美術館企画展ポスター等	46
1	季節感(年中行事)を取り入れたイベント	46
2	奄美の郷ライブステージ	47
3	文化講演会	47
4	わきゃステージ in パーク事業	48
5	その他自主事業及び共催事業	49
6	美術館	50
第6	奄美パーク応援隊について	52

※ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため開催中止

# 第1 鹿児島県奄美パーク概要

## 1 施設の目的

鹿児島県奄美パークは、奄美の美しい自然や多様な文化・歴史をわかりやすく紹介した総合展示ホール、奄美シアター及び人々の交流の場を提供するイベント広場からなる「奄美の郷」と、奄美の自然を描き集大成させた孤高の日本画家「田中一村」の作品を紹介する「田中一村記念美術館」の二つの施設を中核とする奄美群島全体の新たな観光拠点施設として、奄美市笠利町節田の旧奄美空港跡地に建設された。

2 設置者 鹿児島県

3 開園年月日 平成13年9月30日

4 指定管理者 奄美群島広域事務組合

5 園長兼館長 宮崎 緑（千葉商科大学国際教養学部教授・同学部長，元NHK「NC9」ニュースキャスター）

6 園地面積 約77,000㎡

7 総事業費 約78億円

## 8 施設の概要

### (1) 奄美の郷（延べ床面積約3,200㎡）

白い貝殻をイメージした外観。建物内の梁などは、琉球松の大断面集成材でソテツの葉をイメージした造形。

○ 有料 総合展示ホール，奄美シアター

○ その他 アイランドインフォメーション，イベント広場，レストラン，売店

### (2) 田中一村記念美術館（延べ床面積約2,490㎡）

奄美の海をイメージした池に3棟の高倉が浮かぶ設計。床はイタジイを使用。

○ 有料 常設展示室，特別展示室

○ その他 企画展示室，ガイダンス室，図書資料室，喫茶・ミュージアムショップ

### (3) 一村の杜（面積7,000㎡，平成19年7月20日完成）

6つのスポットで構成されている遊歩道。田中一村の奄美作品に描かれている草木を植栽。

### (4) その他の施設

多目的広場（約3,780㎡），野外ステージ，展望台，駐車場（約240台）

## 9 観覧料金（ ）内は20名以上の団体料金（令和元年10月1日改定）

共通	大人630円（500円）	高・大学生420円（330円）	小・中学生310円（240円）
奄美の郷	大人310円（240円）	高・大学生220円（170円）	小・中学生150円（120円）
美術館	大人520円（410円）	高・大学生370円（290円）	小・中学生260円（200円）

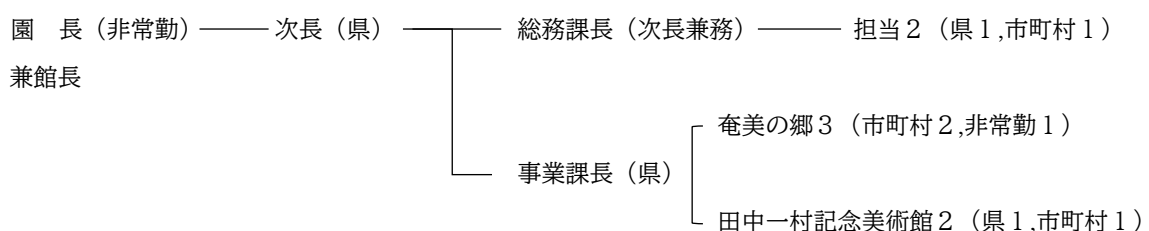
10 休園日 毎月第1，第3水曜日

祝日の場合は翌日。ただし4/29～5/5，7/21～8/31，12/30～1/3は開園

11 開園時間 9：00～18：00（7月，8月は19：00まで）

12 入園者数 令和2年3月末現在 延べ251万1千人（令和元年度入館者数12万9千人）

## 13 組織図



## 第2 令和元年度の事業実績について

「奄美の郷」では、総合展示ホール、奄美シアター、アイランドインフォメーションにおいて奄美群島の自然、歴史、文化などの多彩な魅力を紹介し、イベント広場では島唄、伝統芸能、などのイベントを定期的で開催しています。「田中一村記念美術館」では、常設展示のほか、企画展示室において奄美関連作家展、招待作家展、奄美を描く美術展などの作品展を定期的で開催しています。

令和元年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4件のイベント中止の影響などもあり、令和2年2月以降、入館者数が例年と比較し少ない状況となりましたが、令和2年2月には入館者数250万人を達成しました。

また、奄美パーク屋外の多目的広場では、水鉄砲を使ったサバイバルゲーム「W.P.A ウォーターパーティー in 奄美パーク」を初開催したほか、奄美の郷では、島唄や伝統芸能等を披露する「奄美パーク夏祭りシマジマだより～沖永良部島～」や「奄美の郷ライブステージ 奄美大島の伝統文化」をはじめとして、『サッカーから学んだ人生』を演題とした前園真聖氏の「文化講演会」、例年3,000名程度の多くの子どもたちが参加する「奄美パーク子どもクリスマス会」、田中一村記念美術館では、小中学生とその保護者を対象とした「子ども美術館バックヤードツアー&鑑賞会」や全国の美術愛好家から作品を募集する「奄美を描く美術展」及び龍郷町で同美術展の巡回展を開催するなど、年間を通じて様々なイベントを開催し、施設の利用促進はもとより文化芸術の振興にも資する取組を行いました。

奄美では、令和2年の世界自然遺産登録を見据えた取組やかごしま国体開催準備が着実に進められており、今後更に交流人口の拡大が見込まれています。

このような中、奄美パークでは令和3年9月には開園20周年を迎えますが、奄美群島全体の観光拠点施設として、奄美群島への誘客促進のため、更なる情報発信に努め様々な事業を展開してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



奄美の郷



田中一村記念美術館

### 第3 奄美の郷企画事業

#### 1 季節感（年中行事）を取り入れたイベント

##### (1) 第13回奄美パークわらべシマ唄大会



ア 日時 令和元年5月5日（日）9：30～15：00

イ 場所 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約 630 名

エ 内容

奄美の将来を担う子どもたちが、シマ唄を通じて奄美固有の伝統文化への理解を深めるとともにその技法を学び、シマ唄文化を広く後世に伝える目的で開催した。

参加者は小学校低学年の部に 15 名、小学校高学年の部に 23 名、中学生の部に 15 名の総勢 53 名で、昨年と同数だった。

また、出場者を地域別に見ると、奄美市名瀬を中心に、奄美市笠利町、龍郷町、瀬戸内町、宇検村など多くの地域の方に御参加いただいております、それぞれの地域による唄い方の違いなども楽しむことができました。

来場者は本選出場者のシマ唄はもちろん、ゲストに招いた平成 30 年度各部門の優勝者 3 名（朝そらさん・鈴木明さん・時岡優里菜さん）の他、特別ゲストの要田ののかさん、飯田秋さん、且琴音さんのシマ唄も楽しんでいる様子だった。

各部門の各賞受賞者は以下のとおり。

- |            |         |           |         |
|------------|---------|-----------|---------|
| ■ 小学生低学年部門 | 優勝 大山仁奈 | 準優勝 麓世羽璃  | 3位 津畑杏朱 |
| ■ 小学生高学年部門 | 優勝 千田真帆 | 準優勝 濱地咲笑  | 3位 奥野乃佳 |
| ■ 中学生部門    | 優勝 鈴木侑  | 準優勝 朝岡歩紀花 | 3位 辻竜生  |

## (2) あまみっ子フェスタ



ア 日時 令和元年5月6日(月・祝) 10:30~15:00

イ 場所 屋内イベント広場及び屋外出会いの広場

ウ 入場者数 約520名

エ 内容

屋内イベント広場において、奄美手熟師会が段ボールを使用したおもちゃ、折り紙細工及びマコモを使用したお守りの手作り教室を行い、屋外では、奄美市レクリエーション協会がバルーンアート、輪投げの昔遊びを行うなど、一日を通して創作体験・昔遊びが行われ、それぞれに親子で楽しむ姿が見られた。

一方、ステージでは午前の部において、節田小学校5、6年生児童によるアマンディー太鼓で幕を開け、午前中最後は、大道芸人アトム健児さんが会場を巻き込むパフォーマンスで盛り上げ来場者を楽しませた。

午後の部は、伊津部小学校児童によるさぎ波バンドの躍動感あふれる演技と迫力ある三味線太鼓の演奏で始まり、ダンススクールCORE、B→MATONDS☆DANCE Studio(ビーメイトンズ☆ダンススタジオ)の素晴らしいダンスが続き、本イベント最後では、午前の部でも登場した大道芸人アトム健児さんが、午前の部とは一味違ったパフォーマンスを披露し、あまみっ子フェスタを締めくくった。来場者のほとんどが親子連れで、ゴールデンウィーク最終日を親子で楽しめるイベントとなった。

## (3) ネリヤカナヤフェスタ

ア オープニングイベント



(ア) 日時 令和元年7月15日(月・祝) 13:30~15:10

(イ) 場所 屋内イベント広場

(ウ) 入場者数 約430名

(エ) 内容

令和元年7月14日(日)から8月31日(土)までの期間で開催する「ネリヤカナヤフェスタ」のオープニングイベントとして、「ネリヤカナヤフェスタ~フラダンスパーティー~」

を開催した。開催にあたり、参加するフラダンス教室や団体を募集し、今年は5団体・総勢約80名が集まった。会場には、毎年このフラダンスパーティーを楽しみにしている方や出場団体の家族や知人など多くの観客が詰めかけ、ビデオや写真を撮る姿がみられた。プログラムは全部で9番まであり、出演団体が衣装チェンジをして2回出場するなど、観客を楽しませた。

オープニングは、「ククイ フラ ハラウ」が飾り、それ以降も各団体が華やかなダンスで観客を魅了した。特別ゲストとして坂上友香さんが出演し、奄美への思いや家族に向けて創作した曲を披露した。その透き通った柔らかな歌声に来場者は聴き入っていた。

イベントの最後を飾ったのは「Hula-みんご」だった。親子で踊る親子フラをコンセプトに、手作りの衣装を身に着けた親子が元気いっぱいのダンスを披露し、会場を和ませ、楽しい締めくくりとなった。

出演者は以下のとおり。

ククイ フラ ハラウ、ロイヤルフラ仲山教室、ケアラエアロ フラストアジオ、カレイ・オ・ハウオリ・フラスタジオ、Hula-みんご、坂上友香

## イ 展示関係



(ア) 期間 令和元年7月14日(水)～8月31日(火)

(イ) 場所 アイランドインフォメーション付近

(ウ) 入場者数 11,314名

(エ) 内容

令和元年7月14日から8月31日までの期間で開催する「ネリヤカナヤフェスタ」の展示物として、「海の彼方の楽園～奄美大島の水中世界～」と題し、海洋生物に関する写真展を行った。

写真は、海洋生物に関するものを地元のダイビングショップ「ネイティブシー奄美」から



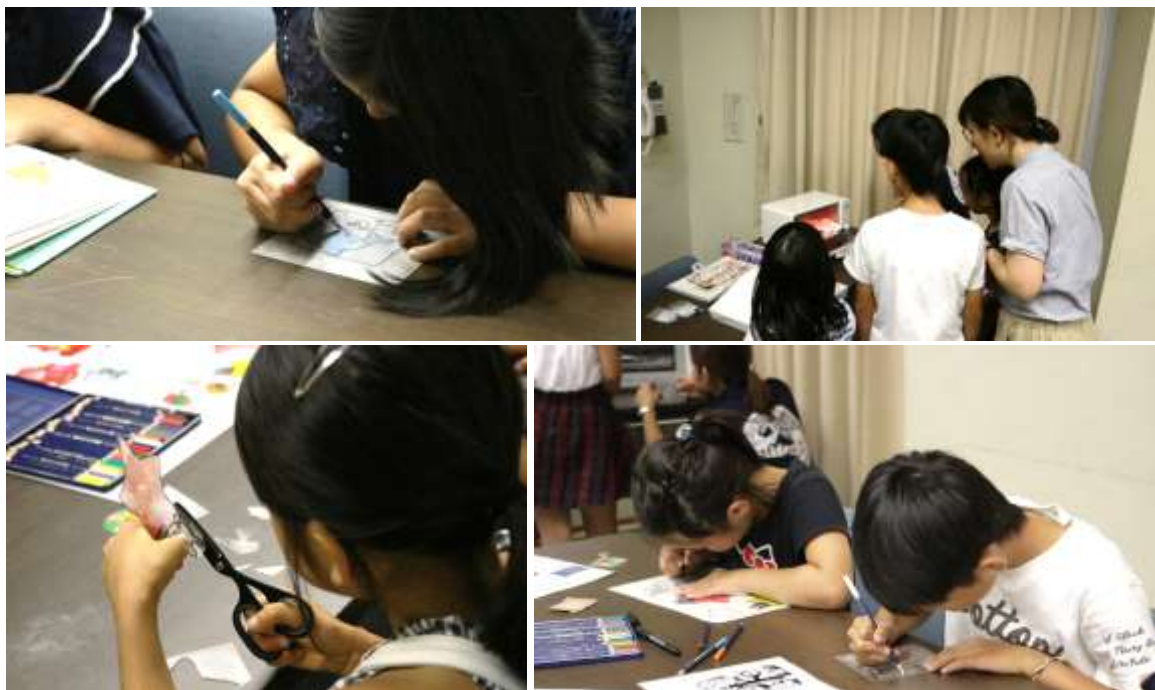
提供いただき展示した。

ネイティブシー奄美のダイビングスタッフが撮影した奄美の海洋生物に関する写真 78 点を、A3 サイズの写真用紙に印刷し、アイランドインフォメーション一面に展示した。

「アオウミガメ」や「ザトウクジラ」等の馴染みのある生物から「アマミホシゾラフグのミステリーサークル」といった珍しい写真のほか、赤、黄色、オレンジ、紫、ピンクと色鮮やかな海洋生物の写真が並び、島内外の観覧者を楽しませた。

夏休み期間中に開催したこともあり、観光客や地元の人々は普段なかなか見ることができない海洋生物の写真に、顔を近づけてじっくりと見たり、スマートフォンで撮影したりするなど、奄美の海の魅力を十分に感じていただける写真展となった。

#### ウ 夏休み親子手作り教室～プラバンでキーホルダーを作ろう～



(ア) 日時 令和元年 7 月 28 日 (日) 10:00～11:30

(イ) 場所 レクチャールーム

(ウ) 参加者数 21 名

(エ) 内容

ネリヤカナヤフェスタの一環で「夏休み親子手作り教室」を開催した。内容は、親子で楽しめるよう「プラバンを使用したキーホルダー」の作成であった。定員 20 名の参加募集を行い、8 組 21 名の親子が集まった。また、当日問合せの電話があり、材料にも余裕があったことで、急遽受け入れた家族もあった。

当日は、奄美パークの職員が講師を務め、作り方を冒頭で説明した後、テーブルごとにリーダーを一人決め、各机の人数分の材料を取りに来てもらう形にした。

材料は、プラスチック板（あらかじめカットしておいたもの）を 1 枚、紙やすり、油性ペンと色鉛筆、ハサミ、穴あけパンチ、キーホルダー金具を使用した。参加者が家庭でも再度作れるように材料はすべて 100 円ショップや安価で揃えられる物を用意した。

あらかじめ、奄美パーク側で見本となるイラスト等を準備し、それぞれが気に入ったイラストをプラスチック板に書き写す姿が見られたが、なかにはイラストを持参したり、スマホでイラストを検索したりして書き写す姿も見られた。親子で世界に一つだけのオリジナリ

ティあふれたキーホルダーを作成することが出来た。キーホルダーが完成すると、嬉しそうにする子どもの姿を撮影する親の姿が多く見られた。材料や作り方を覚えた参加者からは、「家でも作ってみよう。」とうれしそうに話す姿が見られ、参加者にとって夏休みの思い出となった。

#### (4) 奄美パーク夏まつり シマジマだより～沖永良部島～



ア 日時 令和元年8月18日(日) 13:30～15:30

イ 場所 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約300名

エ 内容

毎年、奄美群島の各島々に焦点を当てる「奄美パーク夏まつり～シマジマだより～」だが、今年は沖永良部島から県立沖永良部高校エイサー部、国頭芸能保存会、前田博美さん、バンシローズの4組、合計33名が出演した。

演目の間には和泊町と知名町の両担当者による動画及びスライドショーを用いた町の観光資源や出身著名人などの紹介が行われた。

オープニングを飾ったのは県立沖永良部高校エイサー部。県総合文化祭・郷土芸能専門部発表大会を3連覇し、令和元年の全国高等学校総合文化祭に出場した県立沖永良部高校エイサー部による迫力満点のエイサーで開幕した。「永良部百合の花」や「唐船ドーイ」など5演目を披露し、元気と笑顔あふれる演舞に会場から拍手が送られていた。

続いて、国頭芸能保存会による「四季口語(くどうち)」と約400年前に沖永良部島に伝わった「ヤッコ踊り」が披露され、三味線の演奏と歌に合わせた力強く躍動感のある踊りで会場を魅了した。続いて、前田博美さんによる沖永良部島の島唄「いちきや節」や「作田米」、「稲すり節」など7曲が披露された。島唄の歌詞の意味や歌われる場面など島唄の紹介をしながら歌われ、会場は前田さんの美しい歌声に聴き入っていた。

プログラム最後はバンシローズによるオリジナル曲「今日は市場」や「リトー」など7曲を披露した。島目線で作られた楽曲の背景を説明しながら演奏し、「島あるある」の話になると会場からはうなずく姿や笑い声が聞こえていた。

会場内では、おきのえらぶ島観光協会による黒糖を使ったお菓子や島内で栽培されたコーヒー、きくらげなどの物産展が行われ、「うた・踊り・食」で沖永良部島の多彩な魅力を感じられ

る盛大なイベントとなった。

## (5) サマーコンサート



ア 日時 令和元年8月25日(日) 13:00~15:40

イ 場所 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約340名

エ 内容

今年度開催したサマーコンサートは「夏をイメージしたステージ」をコンセプトにし、ステージ構成を行った。大野正喜氏が代表を務める喜喜ランドの呼びかけにより、箕輪りささんと川上ちえみさんによる琉球創作舞踊、高校生バンドのやっとかっど、丸田留意さん、Hau'ol AI studio、Wako&微魔女バンドの5団体に加えて、奄美観光大使でもあり、奄美大島を中心に活躍しているシンガーソングライター平田輝さんが特別ゲストとして参加し、計6団体が出演した。

オープニングでは平田輝さんがアレンジした朝花節を披露し、会場を大いに盛り上げた。

続いて、箕輪りささんと川上ちえみさんによる琉球創作舞踊でステージに華を添えて、Hau'ol AI studioのフラダンスでは、色鮮やかな衣装に身を包み躍動感のある踊りを披露し、途中で衣装チェンジをするなど観客を飽きさせない楽しいステージとなった。

ソロでピアノ演奏を披露した丸田留意さんは緊張しているとのことであったが堂々とした迫力ある演奏で会場を沸かせた。

Wako&微魔女バンドは、永井龍雲の「ルリカケス」や竹内まりあの「いのちの歌」、平田輝さんの「シマウタに会って」の3曲を披露し、透き通った歌声で会場を魅了した。

高校生バンドのやっとかっどは、高校生では珍しいフォークソングを披露。吉田拓郎の「わしらのフォーク村」から始まり、ビートたけしの「浅草キッド」、甲斐バンドの「バス通り」、長渕剛の「さようならの唄」を披露し、会場からは大きな拍手が何度も沸き起こっていた。

プログラムの最後は、今回のイベントで2回目の登場となる平田輝さんが今回のイベントのために結成したスペシャルバンドで「Go!Go!たつGo!」や「奄美の風~AMAMI WE ARE THE WORLD~」を披露した。最後には来場者と一緒に六調を踊り賑やかな締めくくりとなった。

## (6) フユウンメコンサート



ア 日時 令和元年12月7日(土) 13:30~15:30

イ 場所 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約380名

エ 内容

フユウンメとは冬の折り目という意味であり、一年の豊作に感謝をすることをいう。奄美パークでは、地域の方々や観光で訪れる方々に一年の感謝の意を込めてフユウンメコンサートを開催した。

今回はB→Matonds☆Dance Studio、里朋樹さん、歌謡グループならびや、アマービレ吹奏楽団&瀬戸内町吹奏楽団がじゅまるが出演した。

宮崎園長の挨拶の後、B→Matonds☆DanceStudioの子どもたちによる元気いっぱいのダンスで幕を開けた。会場内では手拍子する大人や一緒に踊る子どもの姿などが見られた。

続いて、瀬戸内町出身の里朋樹さんが島唄を披露した。「山と与路島」や黒糖作りの際に唄われていたという「心配じゃ」、最後は歌謡グループならびやの和田さんが太鼓をたたき、テンポの良い「だれやめ節」「ワイド節」で締めくくると場を賑やかにし、歌謡グループならびやへと引き継いだ。歌謡グループならびやのトップバッターは、坂上陽美さんと坂上友香さん御夫婦が歌手の玉置浩二さんの曲「メロディー」やオリジナルソングなど全4曲を披露した。続いて、ベツチェ生元さん、和田孝之さん、作まゆみさん、岩田幸喜さんが自慢の歌声を披露した。

プログラムの最後は、アマービレ吹奏楽団と瀬戸内町吹奏楽団がじゅまるのスペシャルコラボによる演奏が会場を沸かせた。クリスマスを思わせる曲を織り交ぜて演奏を披露した。東京オリンピック・パラリンピックの応援ソングでもあるパプリカを演奏すると、サンタやトナカイの衣装に着替えた子どもたちがステージ前で踊り、来場者は手拍子をしたり体を揺らしたりして聴き入っている様子であった。

## (7) 初春唄あしび



ア 日時 令和2年1月5日（日）13：30～16：30

イ 場所 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約 380 名

エ 内容

伊勢勝義さんが司会を務めた令和初の初春唄あしびは、日本民謡協会北大島支部会、隆柳勘大社中、節田体操クラブの3団体が参加し、唄に舞に体操と2時間を超える華やかなステージ披露で来場者を楽しませた。

イベント最初のプログラムでは島唄が披露され、祝唄である「長朝花節」から始まり、「俊良主節」、「黒だんど節」、「花染節」を日本民謡協会北大島支部の方が大迫力で歌い上げた。

その後披露された舞踊では、隆柳勘大社中 Child チームや隆柳勘大こと隈元康子さんが華麗な舞踊で舞台に華を添えた。

再び島唄、舞踊が披露された後、イベント中盤には、節田体操クラブが登場。元気いっぱいの体操を披露すると、会場からは歓声や拍手が沸き起こった。

最終ステージの前に出演者による紅白の餅投げを行うと、歓声とともに老若男女問わず舞台前に集まって餅を拾いあう姿が見られた。

興奮冷めやらぬまま、最後は「島育ち」、「島のブルース」、「六調」を来場者と一緒に踊り、賑やかな締めくくりとなった。

## (8) 奄美パーク新春寄席

### ア 与論島公演



(ア) 日時 令和2年1月10日(金) 18:00~19:30

(イ) 場所 与論町砂美地来館

(ウ) 入場者数 約70名

(エ) 内容

開園15周年より奄美群島の各島で開催している、奄美パーク出張新春寄席は、与論島の与論町砂美地来館で開催した。今年は、奄美パークで開催している新春寄席に9年連続で出演していただいている、三遊亭鬼丸さん(真打)をはじめ、三遊亭歌実さん(二つ目)、パペットマペットさん(漫談)の3名に御出演いただいた。

来場者は、慣れない落語に始めは肩に力が入っていたが、三遊亭歌実さんがまくらで緊張をほぐすと、その後の落語「初天神」で多くの笑いを誘った。続いて、三遊亭鬼丸さんが登場し、落語「勘定板」を披露すると、会場は笑いにつつまれた。

漫談のパペットマペットさんが登場。牛とカエルのぬいぐるみを使った芸を披露した。テレビで活躍していることもあり、子どもの姿が多くみられた。

最後に再度登場した三遊亭鬼丸さんが落語「目薬」を披露し、与論島の人たちに落語の笑いを届けた。

演目終了後は、三遊亭鬼丸さんの手ぬぐいや扇子をプレゼントする抽選会が開催された。抽選で当たった方が早速手ぬぐいを身につける場面などがみられ、和やかな雰囲気締めくくりとなった。

### イ 奄美パーク公演



(ア) 日時 令和2年1月12日(日) 13:30~15:00

(イ) 場所 屋内イベント広場

(ウ) 入場者数 約400名

(エ) 内容

毎年恒例となった奄美パーク新春寄席は、9年連続の出演となる三遊亭鬼丸さん(真打)を始め、三遊亭歌実さん(二つ目)、パペットマペットさん(漫談)の3名に御出演いただいた。

毎年行われる寄席を楽しみにしている方も多く、会場には大勢の観客が詰めかけた。最初  
は三遊亭歌実さんがまくらで場を温めた後、本題の演目である落語「式場予約」を披露した。  
続いて、三遊亭鬼丸さんが登場し、落語「片棒」を披露すると会場は大きな笑いにつつま  
れた。

漫談のパペットマペットさんが登場し、牛とカエルのぬいぐるみを使った芸を披露する  
と、会場は笑いにつつまれた。

最後に再度登場した三遊亭鬼丸さんは自身が奄美大島を訪れた際の話をもくらの落語  
「手水廻し」を披露し、トリを飾った。演目終了後には三遊亭鬼丸さんの手ぬぐいや扇子を  
プレゼントする抽選会を開催した。

## ※ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため開催中止

### (9) 奄美パーク春まつり～サンガツサンチ～

## 2 奄美の郷ライブステージ

### (1) あまみのさと うたと舞のステージ



ア 日時 令和元年5月26日(日) 13:30～15:30

イ 場所 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約380名

エ 内容

多彩なうたと舞をテーマに「あまみのさと うたと舞のステージ」を屋内イベント広場で開催  
した。フラカオスタジオ、一条流寿扇会、米田みのり、フラワーガーデン♪、ならびやグループ、  
Nanaの団体と個人6組、約137人が出演した。

開幕はフラカオスタジオの力強く優美なフラダンス3曲が披露された。フラカオスタジオは  
2回出演。2部ではフラダンス4曲が披露され、子どもたちによるフラダンスのスタートに来場  
者からは「かわいい」などの声が聞こえていた。また、3年前に結成した男性のみのフラダンス  
やBIGINの「島人ぬ宝」に合わせたフラダンスが披露され、手拍子や歌を口ずさむ姿が見られ  
た。

一条流寿扇会は女舞「島のブルース」と男舞「風雪流れ旅」を2回に分けて披露した。龍郷柄  
の大島紬姿で披露された「島のブルース」後には来場者にお菓子が手渡された。

米田みのりさんは「朝花節」、「黒だんど節」、「豊年節」のシマ唄3曲を披露した。客席と掛け

合いながら透き通った美しい声で魅了していた。

フラワーガーデン♪はコーラス5曲を披露した。美しい音色のハンドベルで「アヴェ・マリア」、「アメイジング・グレイス」を演奏。続いて、ピアノ伴奏に合わせて人気曲「パプリカ」など3曲が披露され、客席の子供たちが一緒に口ずさんだり、踊っていたりする姿が見られた。

ならびやグループは作まゆみさん、和田孝之さん、岩田幸喜さんによる歌謡曲を披露した。作まゆみさんと仙田流仙田駒由紀さんの踊りによる「愛のままで」に始まり、計7曲の伸びやかで力強い歌謡曲が披露され客席からは時折、声援が聞こえていた。

大野さんと萩原さんの2人組バンドNanaは4曲を披露した。オリジナル曲の「さねん花」や「ハナハナハナ」のほか「童神」、「島のブルース」が披露され、客席からは一緒に口ずさみながら手拍子をするなど盛り上がった。

イベントの最後はNanaさんと米田みのりさんが六調を披露し、会場が一体となって盛り上がりながら幕を閉じた。

## (2) 奄美の郷ライブステージ「ディ！ま～じん島ショー」



ア 日時 令和元年6月23日(日) 13:30~15:30

イ 場所 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約240名

エ 内容

地元のコミュニティラジオ局と協同し、島言葉である島口に関するイベント「ディ！ま～じん島ショー」を開催した。進行は、あまみエフエムのパーソナリティー渡陽子さんが務め、出演者の生元高男さん、日置幸男さん、RIKKIさんたちがオープニングトークで島口の歴史などを学校形式の時間割で区切り分かりやすく説明した。

1時間目は、生元高男さんによる島口の発音教室が行われた。「ムイ」や「ティ」など島口独特の発音を紹介し、来場者も一緒になって練習した。

2時間目は、日置幸男さんによる島口漫談が披露され、会場から笑いが起こるなどステージを盛り上げた。

3時間目は、瀬戸内町出身で歌手のRIKKIさんによる「糸くり節」や「長雲節」、「ワイド節」が披露され、来場者はRIKKIさんの透き通った歌声に聴き入っていた。

イベントの最後は、参加者全員で「とっつぶるの歌」を歌い、司会の渡さんによる「島口を使っていこう」の掛け声のもと来場者と一緒になって「えいえいおう」と声を上げ、イベントを締めくくった。



### (3) 奄美の郷ライブステージ「昭和歌謡祭」



ア 日時 令和元年9月8日(日) 13:30~16:00

イ 場所 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約550名

エ 内容

龍郷町懐メロ同好会等による奄美の郷ライブステージ「昭和歌謡祭」を開催した。当日は、敬老の日が近いこともあり奄美群島各地で様々なイベントや行事が予定されていたが、龍郷町懐メロ同好会の出演を楽しみにしているファンの方々など、多数の来場者が訪れた。

ステージは3部構成になっており、龍郷町懐メロ同好会は第1部、第3部に出演し昭和の名曲全30曲を披露した。

第1部では、龍郷町懐メロ同好会全員で「青い山脈」を歌いステージの幕が開けた。バンドの生演奏をバックに出演者らは力強く歌い上げた。来場者は歌にあわせて口ずさんだり、手拍子をしたりなど楽しんでいる様子で曲が終わるたびに拍手が沸き起こっていた。

第2部では、友情出演として紫乃華舞舞踊教室による日本舞踊とフラカオスタジオによるフラダンスが披露された。華やかな衣装に身を包み躍動感あふれる踊りを披露し会場を魅了した。

第3部では、再び龍郷町懐メロ同好会が出演。出演者は自作の人形を片手に歌を披露したり、曲の雰囲気合わせた衣装を身にまとったりなどして、最後まで観客を飽きさせない楽しいステージとなった。

### (4) 奄美の郷ライブステージ 奄美大島の伝統文化



ア 日時 令和元年11月17日(日) 13:30~15:30

イ 場所 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約390名

エ 内容

今年の奄美の郷ライブステージ奄美の伝統文化では、奄美市笠利町から島唄教室やまゆり会、大和村から大柵八月踊り保存会、大和浜棒踊り保存会がそれぞれ出演した。

オープニングではやまゆり会の中柵一花さん、瀧田結来さん、川見奏音さんによる「朝花節」が披露され、会場に子どもたちのかわいい歌声が響きわたった。続いて「ヨイスラ節」、「イトウー」など全18曲が演奏された。最後に披露された花染節では手話で島唄を表現する新しい取り組みが披露され、会場を魅了していた。

大柵八月踊り保存会は「八月踊り」を披露した。舞台上で男女が円になって歌いながら、次第に速くなる踊りを披露した。チヂン（太鼓）や指笛（ハト）が鳴り響き、陽気で華やかなステージとなった。

大和浜棒踊り保存会は明治35年頃から創始された勇壮果敢な踊り「棒踊り」を披露した。踊りは3部で構成され、異なる長さの棒や鎌、薙刀を互いにぶつけ合い、その様は武術を思わせる力強い踊りを披露した。

イベントの最後は大柵八月踊り保存会と来場者による八月踊りが披露され、会場では手拍子する姿や一緒になって踊る姿が見られ、にぎやかな閉幕となった。

## (5) 奄美パークパフォーマンスバトル 2020



ア 日時 令和2年2月9日（日）13：30～17：00

イ 場所 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約620名

エ 内容

パフォーマーの皆様の日頃の練習成果を発表する機会を提供するとともに幅広い年代の方々にパフォーマンスを楽しんでいただくことを目的に今年で7回目の開催となる「奄美パークパフォーマンスバトル」。今回は18団体、約200名が出場した。

来場者は体操やフラダンス、島唄など様々なジャンルのステージを楽しみに来場し、時折音楽に合わせて手拍子や歓声が沸き起こっていた。

出場者同士による投票の結果、優勝「KILIG（きりぐ）」、準優勝「kualii（くありー）」、特別賞「リッコ モダンジャズ バレエスタジオ」に決定した。

優勝を獲得した「KILIG」は大島高校3年生の女性2人からなる音楽グループで、ピアノの伴奏に合わせて中孝介の「花」と中島みゆきの「糸」を披露した。観客は透き通ったきれいな歌声に聞き入っている様子だった。

準優勝を獲得した「kualii（くありー）」は、フラダンス教室の仲間で結成された仲よしダンスグループで、息の合ったK-POPダンスで会場を魅了した。

特別賞を獲得した「リッコ モダンジャズ バレエスタジオ」は子どもたちによるリズムカルな

タップダンスで会場を沸かせていた。

特別ゲストとしてステージ最後に華を添えたのは、昨年度のパフォーマンスバトルで優勝した「Sei-chan and T-brother's」であった。今回のイベントに合わせて新しく考案した体操パフォーマンスで会場を魅了した。イベントの最後は出演者全員で記念撮影を行い、楽しくにぎやかな締めくくりとなった。

### 3 文化講演会 前園真聖氏「サッカーから学んだ人生」



- (1) 日時 令和2年1月18日（土）12：30～14：20
- (2) 場所 屋内イベント広場
- (3) 入場者数 約200名
- (4) 内容

元サッカー日本代表の前園真聖氏が「サッカーから学んだ人生」を演題に、幼少期から学生時代、プロ選手時代、引退後とサッカー人生を振り返りながら学んだことを語った。

前園氏にとって初来島となる奄美のおすすめスポットや食べ物を来場者に尋ねながら、和やかな雰囲気の中で講演がスタートした。中学生時代の恵まれない環境の中での練習や鹿児島実業高校時代の厳しい練習、環境を変えるため海外でプレーした際の経験談などが語られると来場者は傾きながら耳を傾けていた。

最後に「また奄美を訪れておいしい飲み物や食べ物を楽しみたい」と話す会場からは拍手が送られていた。質疑応答では、好きな音楽や言葉、印象に残った試合など多くの質問が寄せられ、講演時間ギリギリまで答えていただいた。

講演会終了後のサイン会及び撮影会ではうれしそうな笑顔で撮影する家族であふれていた。

### 4 わきゃステージ in パーク事業

- (1) わらべんきゃぬシマ唄（主催：あやまる会）



ア 日時 令和元年5月4日（土・祝）13：00～15：00

イ 場所 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約 130 名

エ 内容

奄美の島唄グループ「あやまる会」主催による「わらべんきゃぬシマ唄」が開催された。

あやまる会は 2002 年（平成 14 年）に発足し、今年で 16 年目を迎え、現在 15 名の子どもたちが毎週土曜、日曜に楽しみながら練習に励んでいると紹介し、手遊び唄の「うんにゃだる」で第 1 部が幕を開けた。

司会進行役は、高校生の且琴音さん、小学生の麓世羽璃さん、津畑杏朱さん、新庄琉花さんの 4 名で行った。

祝い唄である朝花節・長朝花節を出演する子どもたち全員が唄い、その後は、塩道長浜節やらんかん橋節など、小学生高学年及び中高生が順に披露した。

来場者は、聴き入っている様子で、一曲一曲唄い終わる度に大きな拍手をしていた。第 1 部の最後は「わたしゃ」と「ワイド節」で賑やかに締めくくられた。

第 2 部は小学生たちによる「いきゅんにゃ加那節」で始まった。元気いっぱいの歌声に来場者は笑みを浮かべながら聴き入る姿も見られた。その後は、ゲストで徳之島出身の寿敦功さんがワイド節などを披露した。続いて中高生らが出演し、「野茶坊節」「雨ぐるみ節」などを唄い、後半になると会主である松山美枝子さんが登壇した。

ステージの最後は「島育ち」と「六調」で出演者と来場者が踊り、賑やかな幕引きとなった。

## (2) 第 10 弾 島んちゅ会 でい・まーじんま！（主催：島んちゅ会）



ア 日時 令和元年 6 月 2 日（日）13：30～16：00

イ 場所 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約 260 名

エ 内容

奄美の島唄グループ「島んちゅ会」主催による「第 10 弾 島んちゅ会 でい・まーじんま！」が開催された。

島んちゅ会は平久美さんと福山幸司さんが創立し、今年で 17 年目を迎えた。今回は第 10 回

目の節目にあたることから、奄美パークの宮崎緑園長及び龍郷町長の竹田泰典氏から激励のメッセージがあり、司会進行の伊勢勝義氏がこれらを代読した。

まず初めに、平久美さんと福山幸司さんが「長朝花節」を披露し、続いて子どもたち全員で「朝花節」、「イトウ」を披露した。

その後は個々に「やちゃ坊節」や「らんかん橋節」など4曲を披露した。

続いて、日本舞踊の隆柳勘大社中 children チームによる「かわいい魚屋さん」、隆柳勘大こと隅元康子さん、隆柳勘夢こと興ほずみさんによる「恋は天下のまわりもの」の2曲を披露した。

日本舞踊に続いて、三味線合奏では、「行きゆんにゃ加那節」「永良部百合ぬ花」「ヨイスラ節」「やちゃ坊節」の4曲を披露した。三味線合奏に口ずさむ姿や、手拍子をする来場者の姿も見られ、楽しんでいる様子であった。

友情出演した本田廣喜氏は、「豊年節」「砂糖づくりの唄」の2曲を南部の唄い方（ひぎゃ唄）で披露した。続いてのフラダンスでは、島んちゅ会に所属しながらもフラダンスを練習している子どもたちも出演した。

その後は、島唄「黒だんど節」「上がれ日の春加那節」「長雲節」などを含む全8曲を個々に披露し、最後には「ワイド節」や「島のブルース」「六調」など、奄美の人に馴染みのある曲に合わせて出演者、来場者が共に踊り、にぎやかに幕を閉じた。

### (3) 民謡民舞奄美連合大会予選会（主催：日本民謡協会奄美連合会）



ア 日時 令和元年11月16日（土）12：00～16：50

イ 場所 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約540名

エ 内容

公益財団法人日本民謡協会に加盟している奄美群島内の名瀬支部、瀬戸内支部、北大島支部、喜界支部、徳之島民謡研究会支部、あやまる会支部、奄美芸能徳之島支部、山ゆり会支部、名瀬ルリカケス会支部の計9支部から選出された唄者が、全国大会へ向けて自慢の歌声を競った。

奄美パークでは初めての開催となった本予選会は、青年部から始まり、成年部、壮年部、中年部、高年一部、高年二部、高年三部の7部門に分けられており、毎年多数の参加が申し込まれる大会である。各部門からの優勝者のみ全国大会への切符を手にすることができるため、出演者はもちろん審査員も緊張の面持ちで採点しているようだった。

成績発表後は、出演者、関係者及び来場者が一緒になって六調を踊り、長時間の予選会の疲れを感じさせない賑やかな締めくくりとなった。

今年度の民謡民舞奄美連合大会予選会の各部門優勝者は次のとおりである。

- |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|
| ■ 青年部門  | 平田まりなさん | ■ 成年部門  | 松崎博文さん  |
| ■ 壮年部門  | 上野小津江さん | ■ 中年部門  | 平久美さん   |
| ■ 高年一部門 | 奥田磯子さん  | ■ 高年二部門 | 藤山ヨシ子さん |
| ■ 高年三部門 | 阿部ミネ子さん |         |         |

#### (4) 2019 奄美 美の競演（主催：美の競演実行委員会）



ア 日時 令和元年12月1日（日）14：00～15：50

イ 場所 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約550名

エ 内容

美の競演 実行委員会主催による大島紬と京染の和装ファッションショー「2019 奄美 美の競演」が開催された。美の競演は、和装の文化を広めようと2004年から開催しており、今回島内外から総勢約30人のモデルが出演した。

昨年好評だった「金の亀」キーホルダーのプレゼントを今年も先着200名に行うと広報していたためか、イベント開催時間の約30分前には多くの観客が会場に詰めかけた。

色とりどりの華やかな京染着物や上品で落ち着いた色合いの大島紬を身にまとったモデルたちが、舞台上に立つと観客からは「綺麗」、「ステキ」などの感想を言い合う姿やカメラで撮影する姿が多くみられた。

奄美の文化についてのトークショーも行われ、奥篤次さん（奄美リゾート ばしゃ山村 代表取締役 社長）、重田シオリさん（元小学校教諭）、森節代さん（伝統工芸士）の3名による島口や島唄など奄美の伝承に関する話を聴くことができた。

また、地元で活動している舞踊グループ隆柳流が出演し、会場を沸かせた。最後には紬の小物や羽織、コートなどが当たる抽選会が開催され、会場は大いに盛り上がった。

#### (5) 第31回 大笠利わらぶえ島唄クラブ定期発表会（主催：大笠利わらぶえ島唄クラブ）



ア 日時 令和2年1月26日（日）13：30～16：10

イ 場所 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約470名

エ 内容

奄美市笠利町笠利にある「大笠利わらぶえ島唄クラブ」の定期発表会を開催した。奄美パークでは初開催だが、今回で31回目を迎える定期発表会では、小学1年生から中学3年生までの28名が、地域住民らを講師にした島唄や八月踊りなどの練習成果を発表した。

濱地龍介さんと濱崎幹恵さんによる司会のもと、オープニングでは、出演者全員で朝花節と長朝花節を披露した。その後、藤田桜さんによるクラブ生挨拶のあと個人唄が始まった。

初めてのステージ披露になる手島悠雅さん、里萌彩さんが糸繰り節などを歌い始めた。小学3

年生までの披露が終わると、今年クラブを卒業する中学3年生バンドが「海の声」を披露した。CMなどでも耳にしたことのある曲に、大人から子供まで聞き入っている様子が見られた。バンド演奏が終わると小学4年生から中学3年生までの個人唄を披露した。

クラブ生による個人唄が終わると、准講師による請けくま慢女節や、大笠利わらぶえ島唄クラブのクラブ生及び保護者やOB・OGなどが作詞を手掛けた「わきゃ思い」というオリジナル曲を披露した。

最後は保護者の挨拶で締めくくり、「八月踊り」や「六調」を出演者と来場者が一緒になって踊り、賑やかな幕引きとなった。

#### (6) 畳楽器製造バンド奄美ツアー2020 (主催：楠田哲)



ア 日時 令和2年2月23日(日・祝) 13:40~15:40

イ 場所 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約100名

エ 内容

わきゃステージ in パーク 畳楽器製造バンド奄美ツアー2020は、今回のステージを企画した楠田哲氏の「初恋パワーズ」でステージが始まった。久しぶりに披露するという楠田哲氏は奥様のために作ったオリジナル曲「メロンパンナちゃん」で会場を陶醉させ、ハワイの唄「カノホナピリカイ」や「涙そうそう」をボサノヴァ風で披露し、来場者は静かに聞き入っている様子が見られた。

続いて登場したのは、奄美パーク初出演の「はぁみちゃ」。4人グループのはぁみちゃは、オカリナや鍵盤ハーモニカ、三味線やウクレレ等、多様な楽器を組み合わせ奏でる演奏は、独特な世界観を生みだし来場者を魅了していた。

そして、今回のメインである「日本畳楽器製造」が登場。日本畳楽器製造は、音楽を通して畳の良さを伝えようと2010年に結成。関西を中心に活動するこのバンドは、ギターや三味線、ハーモニカなど畳で装飾した楽器で関西仕込みの軽快なトークを交えながら、オリジナル曲を披露した。バンドの代表者は、「日本に畳の良さを思い出してもらいつつ、世界中の床を畳で埋め尽くしたい。」と語っていた。

ステージの最後は「Go!トビニャーズ」が登場し、3曲を披露したが、来場者からアンコールが沸き起こり、オリジナル曲「いいから」を披露し幕を閉じた。

※ 下記(7)~(9)のイベントは新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため開催中止

(7) ならびや歌謡ショー 春の歌謡祭 (主催：ならびや歌謡グループ)

(8) スプリングコンサート (主催：アマービレ吹奏楽団)

(9) 第9回龍郷町キットハレ芸能祭 (主催：龍郷町懐メロ同好会)

## 5 その他自主事業及び共催事業

### (1) 奄美パーク de あそぼうデイ！



ア 日時 平成 31 年 4 月 28 日（日） 10：00～15：30

平成 31 年 4 月 29 日（月・祝）10：00～15：30

イ 場所 屋内イベント広場及び屋外出会いの広場

ウ 入場者数 1 日目約 380 名

2 日目約 600 人

#### エ 内容

一日目は、スーパーボールすくいに必要なポイの引き換えチケットを午前 10 時から受付で配布した。チケットを手にした子供たちは我先にとスーパーボールすくいのコーナーへと向かった。

スーパーボールすくいコーナーは、ビニールプールに水を張り、22mm～45mmまでのさまざまなサイズのスーパーボールを浮かべた。子どもたちの獲得に向け狙いを定めポイを水にくぐらせ奮闘する姿や、何度も受付でチケットを受取り、繰り返し挑戦する姿が見られた。

午後 1 時 30 分からは昔ながらのコマ回しやスピンドールを体験するコーナーを設けた。コマ回しをしたことのない子どもや、回し方が分からない親子には奄美パーク職員がコマ回しをレクチャーした。子どもも大人も、うまく回せると嬉しそうにしていた。

二日目は、雨天という事もあり、早くから親子が来館し、クイズラリーや展示物を観覧しながら、イベント開催を待っている様子が見られた。

イベント開始時間になると多くの家族連れが集まり、当初予定していたボードセイバー作成は総定数を上回る結果となり、急遽塗り絵を用意した。

午後からはコマ回しや、紙飛行機の作成コーナーを設けた。

紙飛行機の作成コーナーでは、様々な紙飛行機を作って飛ばし、親子で楽しんでいた。

二日間に渡って開催した本イベントは終始賑わいを見せており、来場した親御さんからは、「奄美では天気の悪い日に、屋内での子どもが遊べる場所が少なく、ゴールデンウィークはイベントもあまりないため、こういったイベントはありがたい。」など嬉しいご意見をいただいた。



## (2) W.P.A. ウォーターパーティー！ in 奄美パーク



ア 日時 令和元年8月12日(月・祝) 10:00~12:30

イ 場所 屋外多目的広場

ウ 参加者数 約300名

エ 内容

新企画イベントとして参加募集型の水鉄砲を使用したサバイバルゲームを開催した。

当初1チーム8人制の18チーム、計144名で企画し募集を行ったが、予想を上回り応募が殺到したことから、追加募集を行い、計24チーム192名に変更した。

チーム分けについては、次のように行った。

8人未満での参加申込は、大人と子どもに偏らないように振り分けた。なお、チームは全部で6色のグループ(赤・青・黄・緑・黒・紫)に分け、更に各グループ内で4チームに分けた。

当日の受付は、混雑を避けるため申込人数別の受付窓口を開設し、各チームが分かるようチームカラー別のリストバンドと、試合時に使用する鉢巻の代わりとなる幅の広いビニール紐を配付した。

各グループからチームリーダーを1人選出し、トーナメントの対戦相手を決めるくじ引きを行った。その後、4か所のコートにそれぞれ配置したジャッジマン(スタッフ)が、試合をするチームに的となるポイ(金魚すくい等に使用する)を配布し、各自がビニール紐で頭に固定し、試合開始に揃えた。

ホイッスルを合図にスタートし、2分間のチーム対抗戦の打ち合いで、ポイを多く破いた方を勝者とした。(破け具合は10円玉以上とした)天気も良く気温も高かったが、大人も子どもも本気になって狙いを定め、水をかけ合い楽しく試合をしている姿が見られた。

トーナメント形式で決勝進出チームが決まり、各コートで初戦敗退したチームで敗者復活戦を行い、決勝戦は合計8チームで優勝を争った。

優勝チーム、準優勝チーム、3位チームにはそれぞれ各チーム8名分の賞品を贈呈した。賞品内容は次のとおり。

優勝：花火セット(大)、準優勝：花火セット(小)、3位：光るうちわ

### (3) 奄美パークハロウィンイベント



ア 日時 令和元年10月26日(土)

- ・ Trick or Treat 10:00~16:00
- ・ ワークショップ 10:00~11:30, 13:30~15:30
- ・ Photo Boothで写真撮影 10:00~11:30, 13:30~16:00
- ・ スーパーボールすくい 10:00~11:30, 13:30~15:00
- ・ ハロウィンミッションラリー 10:00~16:00
- ・ レクリエーション 13:00~16:00

イ 場所 屋内イベント広場及び田中一村記念美術館入口付近

ウ 入場者数 約660名

エ 内容

昨年、一昨年と好評をいただいた「奄美パークハロウィンイベント」は今年で3度目の開催となった。

当日は、イベント開始時刻とともに多くの親子が詰めかけ、賑やかなスタートとなった。

今年はいよいよハロウィンらしさを体感してもらうため、「ワークショップ」で作製したオリジナルの「モンスターバッグ」を持ち、アイランドインフォメーションに設けた屋内用テントでお菓子をもらえるよう工夫した。「モンスターバッグ」はあらかじめ用意した紙バッグをシールやペン等でデコレーションして作製するもので、ワークショップのブースは終始賑わいを見せていた。

「Photobooth」では、昨年多少の混雑が見られたため、今回は午前と午後に分け、混雑緩和を図った。仮装姿の子供達が嬉しそうに撮影している姿がみられた。

「Scoop a lot (スーパーボールすくい)」は、子供用プールに水を張り、浮かんでいるスーパーボールをポイですくうとスーパーボールが3つまで貰える内容とした。ただし、挑戦するためにはポイの引換券が必要であり、なくなり次第終了とした。

今回も多くの参加者が詰めかけたが、あらかじめ持ち帰れるスーパーボールの数を決めていたため開催時間の間多くの子供達に楽しんでもらうことができた。

「ハロウィンミッションラリー」は、有料の総合展示ホール内にちりばめられた8つのキーワードを見つけ、指定の解答用紙にそのキーワードを記入して提出するとプレゼントを入手できる内容とした。

「レクリエーション」においては、ティダスポーツクラブに協力を依頼し、用意した鉄棒やトランポリンなどを使って体操体験を行った。参加した子供達は鉄棒やトランポリンなどを何度もチャレンジして楽しむ姿が見られた。

園内は、仮装をした来園者やミッションラリーの参加者などで賑わい、ハロウィンイベントに相応しい賑やかな1日となった。

#### (4) 文化の日イベント



ア 日時 令和元年11月3日(日・祝)

① 昔あそび体験会 午前の部 10:00~12:00  
午後の部 13:30~15:30

② ケンムンクイズラリー 終日

イ 場所 屋内イベント広場及び田中一村記念美術館入口付近

ウ 入場者数 約320名

エ 内容

文化の日は有料施設の観覧料を無料としており、この機会に奄美パークをより身近に感じていただくことを目的に文化の日イベントを開催した。

園内は、この日に合わせて有料ゾーンを観覧する方や、様々な昔遊びを体験しようとする多くの大人や子どもらで賑わった。

屋内イベント広場では、「昔あそび体験会」を午前の部・午後の部と2部構成で開催、体験会は、様々な昔遊びを体験することができた。

昔遊びの内容は、ソテツの葉で作る「かご」、果物やアダンの実などを描く「絵葉書」、アダンの葉や竹、ソテツの実を使った「笛」、マコモの葉で作る「神の目」、割りばしと輪ゴムを使った「ゴム鉄砲」などの手作り体験であった。参加者は、各々一生懸命作業に取り組んでおり、すべての昔遊びに参加する方や1つの作品に打ち込む方など様々であった。講師は、地元で地域の子

どもたちに手熟を披露している奄美手熟師会の方々と奄美パーク職員が務めた。大人と子どもと一緒に楽しめる内容となっており、幅広い年齢層の方が時間いっぱい昔遊びを楽しんだ。

また、奄美の歴史・自然・文化に興味を持ってもらうために通年開催している「けんむんクイズラリー」も、この日は有料ゾーンへ無料で入れることから、多くの子ども達が参加していた。

文化の日の無料開放に併せて、昔遊び体験ができるイベントを開催したことで、園内は多くの家族連れでにぎわい、奄美パークをより身近に感じていただく機会となった。

#### (5) 奄美パーククリスマスツリー点灯式



ア 日時 令和元年11月28日(木) 10:30~10:45

イ 場所 奄美の郷 エントランス

ウ 内容

11月27日にクリスマスツリーを設置し、エントランスでクリスマスツリー点灯式を開催した。点灯式には節田保育所の園児18名が参加した。オープニングではジングルベルの曲に合わせて、円状に広がり二人一組で手を合わせるなどしながら元気な踊りを披露した。続いて、北の国からアカペラを披露し、子どもたちの元気な声がエントランスに響いた。

その後、宮崎次長と子どもたちが一緒にカウントダウンを行い、ツリーを点灯した。

ツリー点灯後は子どもたちが色を塗った紙飾りをそれぞれが手に持って記念撮影を行ったのち、ツリーに飾り付けをして鮮やかなツリーが完成した。

(6) 第13回奄美パーク子どもクリスマス会



ア 日時 令和元年12月15日(日)

午前の部 10:00~11:35

午後の部 14:00~15:35

イ 場所 屋内イベント広場

ウ 入場者数 午前の部 約1,300名, 午後の部 約1,200名

エ 内容

午前9時頃から少しずつイベント広場が埋まりだし、「早く席をとらなきゃ。」といった声も聞こえていた。開始10分前には会場を埋め尽くすほどの親子であふれ、子どもたちの楽しそうな声の中に少しばかりの高揚感が漂っていた。午前中は奄美エフエムの石岡氏、午後からは東氏による司会でスタート。午前中の「今日はどちらから来ましたか。」の問いに加計呂麻からとの声も聞こえた。

抽選券の注意やイベントのアナウンスが終了すると奄美看護福祉専門学校こども・かいご福祉学科の学生13名によるレクリエーションがスタートした。学生たちはディズニーキャラクターやサンタさん、トナカイのキャラクターに仮装し、進行役の学生が物語を読み聞かせながら進めていた。大きな家と3人のキャラクターが描かれた紙を折りたたみながら、会場の子もたちと「真ん中になーれ」と掛け声をかけ、キャラクターの位置を中央に変えていく。中央に変えたキャラクターに扮した学生がイラストの後ろから現れると子どもたちの歓声が沸き起こっていた。また、途中から現れたサンタさんとキャラクターが「あわてんぼうのサンタクロース」の曲に合わせてダンスを行うなどした。

最後は子どもたちに大人気の曲「パプリカ」に合わせて合同ダンス。曲が再生されると、あっという間に舞台が子どもたちでいっぱいになり、舞台内外で体いっぱい大きく手を振りながら踊っていた。ダンスが終わると学生たちが子どもたちの小さな手を支えながら、ゆっくりと舞台上から降ろしていた。

会場のざわめきが収まらないうちに鹿児島県出身のパフォーマーK@ITO さんによるパフォーマンスショーがスタート。コインや紐の不思議なマジックやジャグリングが披露されると会場から驚きの声があがっていた。バルーンアートでは手を後ろに回して高速でバルーンを作るなど難しい技の披露や「魚肉ソーセージです。」と簡単に風船を膨らませたものを渡すなどして会場を笑わせていた。K@ITO さんがパフォーマーを目指すきっかけとなったと話したマジックリングでは会場の子どもがアシスタントで参加し、交差する金属製のリングを恐る恐る持っていた。K@ITO さんの掛け声でリングが外れると驚いた様子で不思議そうに舞台を後にしていた。次の水晶玉パフォーマンスでは仮面を被り、神秘的な雰囲気となった。美しい水晶玉が手のひらで浮きあがる不思議な様子に子どもたちは「すごい」などと驚いた様子で釘付けになっていた。最後は光るスティックを使ったパフォーマンスが披露された。音楽に合わせてスティックを振り回すと、花やコクト君、花火などの画像が次々と現れた。最後に奄美パークロゴが表示されると会場から大きな拍手が沸き起こった。

興奮冷めやらぬ中、奄美市公式キャラクターのコクトくんが登場。コクトくんがサンタの手を引いて、舞台上に登ると 27 社の協賛企業と奄美パークからのプレゼントが当たる抽選会がスタート。おもちゃなどが運ばれるたびに会場から子どもたちのうれしそうな声が聞こえていた。

また、午後の部からは奄美看護福祉専門の学生にボランティアで参加していただき、会場整理やコクトくん、プレゼント配布に協力していただいた。会場は親子で談笑する姿や子どもたちの楽しそうな声や姿が見られ、一足早いクリスマスのイベントを楽しんでいた。

## (7) 入館者 250 万人達成イベント



ア 日時 令和2年2月24日（月・祝）10：00

イ 場所 奄美の郷エントランス

ウ 内容

平成13年9月の開館から数えて250万人の入館者を達成した。250万人目の入館者は客船「ばしふいっくびいなす」の乗船者9名であった。乗船者を代表して神奈川県川崎市から来島した吉住幸子さんと宮崎園長により、達成を記念したくす玉を開いた。また、記念品として達成者へ奄美大島の伝統工芸品である大島紬のフォトフレームとタンブラー、田中一村カレンダーを贈呈した。

2月15日の朝に到着し、4コースある中から文化を学ぶコースを選んだという吉住さんは「会社の仲間だった友人と初めて奄美に来た。あやまる岬がきれいだった。もっと奄美の景色を見たい。記念になってよかった。」と話していた。

## (8) けんむんクイズラリー



ア 期間 通年

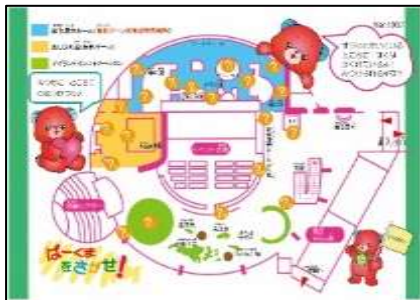
イ 場所 奄美の郷内，田中一村記念美術館受付

ウ 内容

奄美の郷に 17 箇所，田中一村記念美術館受付の 1 箇所に展示物の解説や，八月踊りの体験などのオリジナルクイズを掲示し，ゲーム感覚で奄美の歴史や文化等を学べる「けんむんクイズラリー」を実施した。室内で実施するクイズラリーは，天候や気温に左右されることなく気軽に楽しむことができ，また，平成 30 年 7 月にリニューアルオープンしたアイランドインフォメーションの内容からも出題したことで，展示物をじっくり見てまわる姿も見られた。クイズを解き終わった参加者には，参加賞の奄美パークオリジナルシールをプレゼントした。定期的にクイズ内容を変更するとともに，シールのバリエーションも増やし，参加者がまた挑戦したいと思えるよう工夫した。田中一村記念美術館への誘客につなげるため美術館の受付にもクイズを掲示した。

何度も挑戦する地元の子どもに混ざって，観光客が親子で挑戦している姿も見られ，より多くの方が奄美への関心を高めるきっかけとなった。

## (9) ぱーくまをさがせ！



ア 期間 通年

イ 場所 奄美の郷内

ウ 内容

未就学児も楽しめるよう奄美の郷の 20 箇所に掲示したオリジナルキャラクター「ぱーくま」を探す「ぱーくまを探せ！」は，天候を気にすることなく楽しむことができ，未就学児を対象としたことで，親子で取り組む姿が見られ，奄美パークの誘客にも繋げることができた。クイズを解き終わった参加者には，参加証の奄美パークオリジナルシールをプレゼントした。

なお，定期的に配置換えをすることで参加者を飽きさせないこと，季節に合わせたオリジナルシールを増やしたこと，解答用紙の裏側に塗り絵ができるイラストを数種類印刷し，参加者がまた挑戦したいと思えることなど様々な誘客促進の工夫をした。

何度も挑戦する地元の子どもに混ざって，観光客が親子で挑戦している姿も見られ，にぎわいのある日も多くあった。

## 第4 田中一村記念美術館企画事業

### 1 奄美関連作家展及び招待作家展

#### (1) 松本零士&牧美也子の世界展



ア 期間 令和元年7月14日（日）～8月4日（日）

イ 場所 企画展示室

ウ 入館者数 3,232名

エ 内容

NPO法人アマミーナが主催となり、マンガ界のレジェンド夫婦によるコラボ展を開催し、美しいサイン入り複製画59点を展示した。

7月14日（日）には、オープニングイベントとして、NPO法人アマミーナ理事長の徳雅美氏によるギャラリートークを開催し、マンガ作品の紹介、松本零士氏&牧美也子氏からのビデオレターを放映した。

また、奄美市生涯学習講座講師の福島憲一郎氏によるマンガ教室が行われ、マンガを上手く描く方法などを指導していただき、参加者はそれぞれにマンガについて理解を深めた。

8月4日（日）には、クロージングイベントとして、甲南女子大学准教授の増田のぞみ氏を講師に招き、特別講演会を開催した。増田講師は、メディア文化論やマンガ研究を専攻されており、少女マンガの歴史や移り変わりを紹介し、時代ごとに描かれるヒロインの生き方や考え方などを解説された。

今回の松本零士&牧美也子の世界展について来館者からは、「マンガの世界の原画を初めて観ることができて感動しました。」「昔なつかしい作品がたくさんあり、心が和みました。」「世界観がすごくて圧巻でした。」等の感想を得た。

#### (2) 写真展 一写入魂 加川家三代でみる徳之島の肖像展



ア 期間 令和元年8月11日（日）～9月1日（日）

イ 場所 企画展示室



ウ 入館者数 2,565 名

エ 内容

日本復帰直後から徳之島を撮影してきた加川徹夫を中心に、息子のトオル、孫の亮、京の親子三代が見た徳之島の暮らし、闘牛、自然、祭り、肖像のカテゴリーに分けた作品 71 点を展示した。

初日はフロアトークが行われ、息子のトオル、孫の亮、京の作家がそれぞれ作品解説を行い、作品のモチーフや制作にあたる経緯、想いなどを解説し、訪れた関係者や写真愛好家らが熱心に耳を傾けていた。

来館者からは、「人と自然の営みと、生と死に思いを馳せる姿。すばらしいシーンの数々でした。」「親子三代の歴史の積み重ねた一枚一枚が、懐かしさや、新しい発見、知らなかった風習をこの写真展で見ること、知ることができて感無量です。」等の感想を得た。

徳之島というフィールドの中で魅力的な自然や文化、風習などを親子三代の視点・感性で切り取り、鑑賞する人々が写真全体を通して、徳之島を感じることができた展示会となった。

### (3) パリ・奄美 吉村英彦絵画展



ア 期間 令和元年 12 月 22 日（日）～令和 2 年 1 月 26 日（日）

イ 場所 企画展示室

ウ 入館者数 4,253 名

エ 内容

教育者として美術教育を中心に教育活動に熱心に取り組みながら、美術作家として常に高い芸術性を追いつけている吉村英彦氏による「パリ・奄美 吉村英彦絵画展」を開催した。

近年吉村氏は、演奏者が楽器に触れる瞬間の爆発的なエネルギー感に魅力を感じ、音楽を主題に演奏者とピアノをモチーフとした作品を制作し、独自の表現を追求し続けている。

本展では、第 71 回南日本美術展（2015 年）で第 21 回吉井賞を受賞し、2017 年 4 月から 2018 年 3 月までフランス・パリに留学した期間に制作した作品や現在奄美大島で生活する中で制作した作品を中心に洋画や水彩画など 38 点と、裸婦の素描やパリの日常を描いたドローイングを展示した。

初日には、オープニングセレモニーとしてフロアトークを実施し、吉村氏から各作品へのこだわりや思いを解説していただき、訪れた美術愛好家らが熱心に耳を傾けていた。

来館者からは、「パリの雰囲気をもっと感じることができました。」「奄美でこのような絵画展が見られるなんて、とても感動しました。」「色彩と線の動きが美しい。引き込まれました。」「鮮やかな赤、力強い筆力、そして繊細さ。目で観ることはもちろん、耳で感じられる作品でした。」等の感想を得た。

## 2 第66回県美展—奄美関連作家—展



ア 期間 令和元年6月16日（日）～7月7日（日）

イ 場所 企画展示室

ウ 入館者数 3,436名

エ 内容

第66回記念県美展において入選、入賞した奄美関連作家の作品を、洋画9点、デザイン1点、彫刻1点、写真15点、合計26点展示し、島内外の美術愛好家に紹介するとともに、奄美群島の芸術発展に寄与することを目的に開催した。

6月16日のフロアトークでは、鹿児島県美術協会会員の稲光政氏と久保井博彦氏による作品解説と、出品した作家数名が自らの作品について紹介を行った。

今回の展示では、奄美群島から出品し、県美術協会賞をはじめ、奨励賞を受賞した作品に加えて田中一村記念美術館賞の作品も展示した。

来館者からは、「いろいろな目の付け所により日常の中でも素晴らしいものがあり、感動を与えてくれるものがあるものだと痛感しました。」「長年、研鑽を積んだ人の作品は落ち着いていて、静かな中に動きがあって素晴らしい。」等の多くの感想を得た。

## 3 第9回田中一村記念スケッチコンクール作品展



ア 期間 令和元年9月8日（日）～9月24日（火）

イ 場所 企画展示室

ウ 入館者数 2,020名

エ 内容

奄美群島内の小・中学生を対象に奄美の自然や生活、伝統行事などをテーマにスケッチ作品を募集した。奄美群島内80校からの小・中学生の応募があり、884点の作品の応募のうち入選、入賞した379点を展示した。

応募作品からは、学校での学びを活かしながら、奄美の自然、それぞれの体験や地域への思いなど、個性豊かに表現した作品が多数見られた。

来館者からは、「奄美らしく、すばらしい色彩・感覚。子どもたちの対象に対しての視点の感性に驚いています。」「自然豊かな中で育った子どもたちのすてきな作品です。とてもよく観察していると思いました。」「子どもたちの目から見た奄美の風景は、新しい見方、感じ方ができ、楽しく絵を拝見させていただきました。」等の感想を得た。

#### 4 第18回奄美を描く美術展

##### (1) 本展



ア 期間 令和元年10月20日（日）～11月17日（日）

イ 場所 企画展示室

ウ 入館者数 5,373名

エ 内容

奄美を描く美術展は、全国の美術を愛好する方々が奄美を訪れ、奄美の風物や文化に接し、作品を発表する機会を提供するとともに、奄美の文化振興、観光の発展に寄与することを目的に開催している。

第18回展では、全国から106点（油彩・水彩・アクリル・日本画・タイル画など）のすばらしい作品が寄せられた。今年度は、幅広い年代からの作品と、初出品の方が増えたことが特徴で、新しい視点で奄美をとらえて描かれており、厳正な審査の結果、入賞12点、入選48点の合計60点の作品を展示した。

今回、女性初の審査員長を務めた福島瑞穂氏（独立美術協会会員・日本美術家連盟理事）は、「審査を行う中で、一人一人の奄美に対する思い入れがしっかり伝わってきました。そのような作品群の中でも特に入賞作品からは、制作者自身が感じ、表したい奄美の特色が、油彩画や日本画といった描画材とモチーフや色彩、構図といった要素が高い次元で結びつき、内容、技術ともに魅力を感じました。20代、30代の若い作家による新しい表現へのチャレンジも数多く見られ、今後の創作活動に期待したいです。」と総評した。

来館者からは、「様々な視点で奄美を感じ、そして個性あふれる表現がたくさんあり感動しました。」「県外の方も多く出品されていて、それぞれの視点での奄美の捉え方を楽しく観させてもらいました。」「まだまだ私の知らない、魅力的で、神秘的な奄美を知ることができて大変よかった。」等の感想を得た。

## (2) 巡回展



ア 期間 令和元年12月8日（日）～12月15日（日）

イ 場所 龍郷町りゅうがく館

ウ 入場者数 219名

エ 内容

奄美を描く美術展の巡回展は、平成22年からスタートし、奄美群島内を巡回している。10回目の開催となる今回は、龍郷町のりゅうがく館にて本島で初めての開催となった。

巡回展では入賞作12点に、入選作48点の中からさらに選び抜かれた16点を加えた28点を展示した。同館職員の御協力により、すばらしい展示会となった。

来館者からは、「実際に見たことがある場所を描いた絵もあり、情景を思い出した。」「奄美のモチーフを表現したユニークな素晴らしい特色のある作品に感動した。」「この巡回展は素晴らしい。一人でも多くの人に観てほしいと思います。」「こういった巡回展を不定期でもいいので開催してほしい。」「一週間だけではなく、もう少し長く展示してほしい。」等の感想や意見を得た。

## (3) 入選・入賞作品



### 第18回奄美を描く美術展大賞

#### 「共に生きるシマ」

F15 油彩 坂元 蘭ペルージ（沖縄県）

生物多様性の島、奄美らしい動植物が、画面いっぱいに配置され、ハブやヤギなどそれぞれの生き物がしっかり描かれている。

色彩や大胆な構図、空間処理など技術の高さも感じられる。様々な生き物が共に生きるシマの未来への不安と期待が感じられる。



田中一村記念美術館賞

「光の帯」

F15 日本画 亀井 文 (東京都)

海の底にたたずむ人物，力強いモダマの木，そのまわりをリズムカルに泳ぐハナヒゲウツボ。海底の光のゆらめきや差し込む光の筋が現代的である。



優秀賞

「約束」

52×60 油彩 平野 良光 (大島郡)

ルリカケスや水，岩の表現，画面全体の色調など，技術的に高いレベルにある。

細密に描かれた画面は密度があり，色彩も大変美しい。



優秀賞

「太古からの守り神」

F15 日本画 前田 正樹 (神奈川県)

ハブやアマミノクロウサギなど，奄美の夜の情景がしっかり描かれている。

日本画独特の色彩が美しい。作品に近づいて鑑賞してほしい。



優秀賞

「Soda Blue (加計呂麻)」

F15 日本画 上田 泰徳 (東京都)

水の透明感や動き，光による海の色の変化など，奄美の海的美しさが淡い色調で描かれている。日本画の高い技術が感じられる作品である。



優秀賞

「記憶のスケッチ」

F15 アクリル 田中 孝林 (福岡県)

住用山間の石抱きガジュマルや背景に描かれた山や空の配置など，空間の取り方がよく，モノトーンで描かれた画面からは光が感じられる。



優秀賞

「生命力」

F15 水彩 前島 美和子 (奄美市)

森の守り神のごとく画面中央に鎮座するガジュマルの木。

森の静けさや光の美しさが対象を丁寧に描くことでしっかり表現できている。



佳作・奄美の海賞

「アダンの旅」

F15 水彩 丸山 良二郎(鹿児島市)

海中に沈んだ色づいたアダンとミサゴや熱帯魚が丁寧に描かれている。

空間のつくり方や砂や水の表現に工夫がみられる。



佳作・奄美の空賞

「西古見・ナハンマ海浜」

F15 油彩 牧野 ハツエ(大島郡)

西古見のナハンマ海岸からの風景が光と影の表現を工夫してしっかり描かれている。

奄美らしい太陽の光の強さが感じられる作品である。



佳作・奄美の杜賞

「Escape VI」

P12 タイル画 手塚 環（東京都）

タイル画の本作品は、独特の質感で奄美を表現している。一つ一つのモチーフの描写に高い技術が感じられる。若冲的な模様の表現もおもしろい。



ヤング賞

「女の子いっぱい」

54×38 クレヨン 松元 みそら（奄美市）

現代的な色彩感覚で、色がとても生き生きしている。描きたいことを素直に自身をもって表現しているところがよい。





シルバー賞

「I LOVE AMAMI “ヤドカリの想い”」

15号 ミクストメディア すずき あけみ  
(大島郡)

主題であるムラサキオカヤドカリが張り込まれた古材に力強く描かれているところが魅力的である。モノトーンで描かれた背景も勢いが感じられる。

### 【審査総評】

「奄美を描く美術展」の出品作品は、8号から15号と小品ではありますが、一枚一枚の作品が生き生きと力強く描けており、質の高いよい絵が集まっていました。

審査を行う中で、一人一人の奄美に対する思い入れがしっかり伝わってきました。そのような作品群の中でも特に入賞作品からは、制作者自身が感じ、表したい奄美の特色が、油彩画や日本画といった描画材とモチーフや色彩、構図といった要素が高い次元で結びつき、内容、技術ともに魅力を感じました。20代、30代の若い作家による新しい表現へのチャレンジも数多く見られ、今後の創作活動に期待したいです。

今回審査のためにはじめて奄美を訪れ、奄美を描いた作品や美しい自然、シマ唄、泥染めなどの独特の文化に触れてみて、いつまでも多くの人々を魅了し続ける島であってほしいと願うとともに、本展覧会の今後の発展が楽しみに感じました。

審査員長 福島 瑞穂 (独立美術協会会員)

## 5 その他企画展

### (1) 田中一村の写生展



ア 期間 平成31年3月31日(日)～令和元年5月19日(日)

イ 場所 企画展示室

ウ 入館者数 8,298名

エ 内容

田中一村が描いた写生図や下絵、構想図を展開する小企画展「田中一村の写生展」を開催した。写生による企画展は、田中一村来島50周年記念「田中一村写生の世界展」を機に開催した2013年以来で、普段あまり見ることのできない一村の作品が一堂にそろそろ希少な機会となった。一村が奄美大島に旅立つ前までに描いた写生は、およそ30年間でスケッチブック100冊以上あったと記録が残っているが、その大部分は自ら焼いてしまっており、現在実在するものは200点ほどである。

今回はその中から42点を選抜した。どの写生も一村が創作活動において、どれだけ写生を大切にしていたかを感じられるものばかりであった。作品は、千葉・奄美時代に一村が好んだ鳥や魚の写生をはじめ、下絵や構想図など、来館者が一村作品の原点に触れることのできる機会となった。

来館者からは、「どの作品も繊細な描写で感動しました。」「ものを見ようと闘っている様子が伝わってくる。」等の感想を得た。

### (2) 龍郷町立小・中学校図画工作・美術科学習発表展



ア 期間 令和元年11月24日(日)～12月8日(日)

イ 場所 企画展示室

ウ 入館者数 1,939名

## エ 内容

児童・生徒の創作活動への興味・関心・意欲を高め、美術館を身近に感じてもらうとともに、保護者や地域住民に学校の学習内容や児童・生徒の様子を理解していただき、指導内容等についての情報交換の場となることを目的に、龍郷町立の小学校7校と中学校3校の児童・生徒が授業で制作した絵画・立体などの作品を展示した。

多くの方が来館し、学校での指導や子どもたちの豊かな発想について語り合う姿が見られた。

来館者からは、「自分の作品を見てもらえてうれしい。友達の作品もあって、上手だなと思った。」「図画作品で細かなところまでよく描けている作品がありました。工作の作品も楽しそうなものがあって、頑張った様子がうかがえました。」「このように美術館で展示されている作品を見るのは、子どもたちにとって貴重な機会だと思います。学校とはまた違った新鮮な気持ちで鑑賞することが、次の新たな創作につながると思います。」等の感想を得た。

### (3) 第70回鹿児島県図画作品（特別賞）展



ア 期間 令和2年2月2日（日）～2月16日（日）

イ 場所 企画展示室

ウ 入館者数 2,382名

## エ 内容

今年で70回を迎えた鹿児島県図画作品展において、県下の幼稚園・保育園・認定こども園、小・中学校、義務教育学校及び特別支援学校（幼稚部・小学部・中学部）の幼児・児童生徒が、授業の中で楽しく生き生きと表現した作品を募集し、約15万点の作品の中から厳生な審査を経て特別賞に選ばれた46点を展示する「第70回鹿児島県図画作品（特別賞）展」を開催した。

特別賞作品からは、各校での真剣な取り組みの様子がうかがえ、全体的に明るく、形や色調などに工夫された作品が多く見られた。

来館者からは、「小学生や中学生が、こんなエネルギーを持った絵を描くんだと感動しました。」「子どもたちの素晴らしい個性が見えてきて、とても素敵な作品ばかりでした。」「奄美で図画作品展をしていただき、とても有り難いです。子どもたちの刺激にもなると思います。おおらかで、のびのびとした絵からエネルギーをもらいました。」等の感想を得た。

## 6 創作体験教室ほか

### (1) 田中一村の美の世界



ア 日時 令和元年5月11日(土) 16:00~17:00

イ 場所 田中一村記念美術館

ウ 参加者数 13名

エ 内容

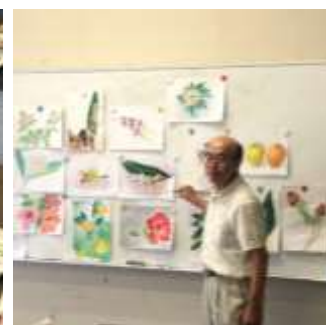
田中一村記念美術館において、田中一村研究の第一人者である千葉市美術館上席学芸員の松尾知子氏によるギャラリートークを開催した。

松尾氏は、常設展示室や特別展示室、企画展示室に展示されている一村の東京・千葉・奄美時代のそれぞれの作品の変遷や、時代背景の解説を来場者にわかりやすく、興味や関心が高まるよう丁寧に解説を行った。

参加者は松尾氏の解説を聞きながら一村の作品を丹念に鑑賞しており、時折松尾氏に質問しつつ、一村の作品や生き方について更に理解を深めた様子であった。

参加者は島内在住者に限らず遠方から来られた方もおり、「作品の背景にある一村の苦悩などを聞くと、鑑賞時にこれまでと違った趣を感じた。」等の感想を得た。

### (2) 創作体験教室「奄美を描こう」



ア 日時 令和元年5月19日(日) 10:00~16:00

イ 場所 レクチャールーム

ウ 参加者数 10名

エ 内容

当美術館初代学芸専門員で、現在鹿児島県立川辺高等学校で非常勤講師として勤務している西村康博氏を講師に招き、日本画の創作体験教室を開催した。

参加者は墨や日本画用の水彩絵具を使い、季節の植物や貝殻、果物をテーマにそれぞれの作品制作に挑戦した。講座では講師が日本画の特徴や制作の手順を説明した後、参加者が植物や貝殻などの題材を決め、木炭であたりをとる作業(線を描き、大まかな位置決めをする下書き作業)を行った。その後、墨で下描きをし、日本画用の水彩絵具を使って作品を作成した。途中、講師

が参加者の作品を見てまわり、構図や形のとらえ方、彩色についてアドバイスを行った。参加者の多くがそれを参考に作品を完成させた。

最後に、完成した作品に講師が講評を行い、互いの作品を鑑賞し合った。講師からは、「想像で描くのではなく、細かいところまで実物を見て、形を追いかけて線や色を描くことが大事。想像で生きた線は描けない。水の量、水の含ませ方で色の調整を上手くやっていくことが大事。」等のアドバイスがあった。

参加者は、「月桃の葉っぱの葉脈を描くときの色の合わせ方など勉強になった。」「果物は積極的に色を重ねて、光の当たる部分を大事に影をしっかりと出して、浮かび上がる様に描くことを教わりました。」等の感想を得た。

### (3) 夏休み子どもワークショップ 万華鏡をつくろう



ア 日時 令和元年7月20日(土) 10:00~11:30

イ 場所 レクチャールーム

ウ 参加者数 36名

エ 内容

奄美の郷レクチャールームにて、当館学芸専門員を指導者として「夏休み子どもワークショップ 万華鏡をつくろう」を開催した。今回2回目の実地となる万華鏡づくりには、定員の小学生20名とその保護者が参加した。

まず初めに、それぞれのテーブルごとに自己紹介を行ってから万華鏡の作成を始めた。

万華鏡の作成には、はさみを使用する工程があるため、参加者には各自はさみを準備してもらい、低学年の子どもたちがはさみを使用する際には、保護者と一緒に工作を行ってもらった。参加者は、指導者の説明を聞きながら楽しく万華鏡づくりを行った。

万華鏡に入れるビーズの種類や量によって模様が変わるため、何を入れるかを親子で相談しながら楽しそうに作成する場面などが見られた。また、それぞれに完成すると、隣同士で交換して万華鏡をのぞき込むなど、喜んでいる様子が見られた。

参加者からは、「いろんな色や模様が見えてきれい。」「今度は違う色のビーズを入れて模様を変えてみたい。」等の感想を得た。

自分で美しい模様を作り出す万華鏡を作成することで、親子や友人同士で協力しながら創作活動を楽しめるワークショップとなり、夏休みの思い出となった。

#### (4) 夏休み親子 草木染め体験



ア 日時 令和元年8月24日(土) 10:00~15:00

イ 場所 レクチャールーム, 屋外管理棟

ウ 参加者数 18名

エ 内容

奄美市笠利町で「工房しまむたび」を経営する植田正輝氏を講師に招き、夏休み親子「草木染め体験」を開催した。

参加者は、まず初めに奄美の郷レクチャールームにて、自然の素材を生かした染色技法を学んだ後、屋外に移動し、奄美パーク内で採取したフクギの葉や枝を1時間ほど煮出して染料を作った。フクギの染料を煮出している間にレクチャールームで、草木染めするTシャツなどを思い思いの模様になるよう考えながら糸で縛る作業を行った。その後、再び屋外管理棟へ移動して染めの活動に取り組んだ。フクギから抽出した染料を繊維に定着させる媒染という工程を繰り返すことで色素の染色濃度が上がり、Tシャツなどは鮮やかな黄色に染めあがった。

参加者からは、「思ったより色が濃く出たのでびっくりした。」「染めたTシャツはパパにプレゼントしたい。」等の感想を得た。

身近な植物の葉や茎などの自然の素材を使い、煮詰め、染め、媒染までの各工程を親子で体験しながら草木染めの魅力を体感していただいた。

#### (5) もっと知りたい田中一村鑑賞会



ア 日時 令和元年9月8日(日) 10:00~11:30

イ 場所 レクチャールーム, 田中一村記念美術館

ウ 参加者数 14名

## エ 内容

当館学芸専門員を講師として「田中一村鑑賞会」を開催した。奄美に魅せられ、奄美の自然を描き、日本画の新境地を拓いた田中一村について、その生き方や作品の基本的なこと（題材や構図、技法などの特徴等）への理解を深め、より深く田中一村の作品を味わえるようになることを目的として実施した。

参加者は、奄美の郷レクチャールームにおいて、田中一村の生い立ちや作品のスライドショーを見ながら熱心に耳を傾け、田中一村についての知識を深めた。その後、田中一村記念美術館に場所を移し、当館学芸専門員による作品の解説を交えた鑑賞会を行った。参加者は、絵を丹念に観て質問をしながら、一村の生き方や作品について理解を深めた。鑑賞会終了後は、参加者同士で話し合う姿や、再び展示室に向かう姿が見られた。

参加者からは、「改めて一村の才能に驚かされました。また来たい。」「今日は知らない一村の話も聞くことができて有意義だった。」等の感想を得た。

## (6) 子ども美術館バックヤードツアー&鑑賞会



ア 日時 令和元年11月3日（日・祝）10：00～11：20

イ 場所 田中一村記念美術館

ウ 参加者数 24名

## エ 内容

文化の日に合わせて、小・中学生とその保護者を対象とした「子ども美術館バックヤードツアー&鑑賞会」を開催した。

本プログラムは、「第1部 美術館の役割について」「第2部 美術館の施設見学」「第3部 田中一村について」「第4部 田中一村作品鑑賞」の4部構成で行った。

第1部では、当館学芸専門員より、美術館の役割や施設の機能、教育・普及活動について説明した。

第2部では、学芸員室、荷揚げ場、機械室、電気室、収蔵庫前など、普段は見るできない美術館の裏側を見学して回り、美術館を運営するために必要な施設の説明を行った。

第3部では、作品を鑑賞する前に、田中一村の各時代の作風や生活に関する事など、田中一村に関する基本的なことを説明した。

第4部では、作品鑑賞のために展示室に移り、東京・千葉・奄美時代の作品を参加者それぞれの見方、感じ方を大切にしながら、対話形式で鑑賞していただいた。

参加者からは、「絵を大切にするために温度調節をしていたことに驚いた。」「美術館が好きなので、裏側のいろいろな設備を見られて楽しかった。」「田中一村さんの絵がとても細かく描けていて、色や形などをじっくり見ると、ものすごく上手だと思った。」等の感想をいただいた。

## (7) 創作体験教室 人物画講座



ア 日時 令和2年2月22日(土)、23日(日)両日とも10:00~15:00

イ 場所 企画展示室

ウ 参加者数 22日 11名, 23日 12名

エ 内容

西健吉氏(公益社団法人二科会理事)を講師に招き、創作体験教室「人物画講座」を開催した。モデルは、笠利町在住の方に2日間依頼した。

1日目は、1分間モデルを見て全体像を覚え、モデルのいない状態で4分描く5分間のイメージクロッキーを3セット行い、再度モデルに同じポーズをとってもらい自分が描いた絵とどれくらい違うかを確認。今度は、モデルを見ながら5分間のクロッキーを1セット。その後固定ポーズで15分間描き、5分休憩を繰り返し行った。

2日目は前日同様、5分間のイメージクロッキーを2セットと、5分間のクロッキーを2セット行い、その後1日目とは異なるポーズを描くという工程で行った。

参加者はモデルの特徴を捉え、鉛筆や木炭、水彩等で人物画の制作に取り組んだ。特に2日目には、積極的に西先生からの絵に対する助言を受け、それぞれに個性あふれる作品を制作した。

両日とも最後に、制作した作品一点一点について西先生が講評を行い、参加者は熱心に耳を傾け、時には質問をしながら互いの作品を鑑賞した。

参加者からは、「的確なアドバイスをくださるのでうれしい。」「実際にモデルを見ながら描くのはとても勉強になる。1年に1回の西先生の講座なので気合いをいれて受講している。」等の感想を得た。



# 第5 各種イベント・美術館企画展ポスター等

## 1 季節感(年中行事)を取り入れたイベント

**第13回奄美パーク  
カラペンタフェスタ**  
奄美パーク 屋内イベント広場  
2019.05.05.SUN AM9:30- 入場無料

**あまみっ子フェスタ**  
奄美パーク 屋内イベント広場  
2019.05.06.MON AM10:30-15:00  
会場 アトム健児がわってくる!

奄美島県 奄美パーク  
〒984-0204 奄美市高千穂町野間町1-13-14  
Tel:0997-61-2222 Fax:0997-61-2812  
HP: http://www.amami-park.com/

**ネリヤカナヤフェスタ**

写真展「奄美の自然」  
7/14(日)～8/31(土)  
時間: 9:45～17:00(入場無料)

15 フラダンス  
会場: 屋内イベント広場  
時間: 13:30～  
入場料: 無料

フラダンス  
会場: レクチャールーム  
時間: 10:00～11:30  
参加料: 無料

奄美島県 奄美パーク  
〒984-0204 奄美市高千穂町野間町1-13-14  
Tel:0997-61-2222 Fax:0997-61-2812  
HP: http://www.amami-park.com/

**奄美パーク 夏祭り**  
～シマシマだより～

出演: 新治町 | 国崎ヤッコ、南立沖島直部高校エッセイ部  
知名町 | 前田博美 (シマ娘)、ロシラローズ (ロシト)

**8.18(日)** 入場無料 | 物販あり  
13:30～15:30 屋内イベント広場

奄美島県 奄美パーク  
〒984-0204 奄美市高千穂町野間町1-13-14  
Tel:0997-61-2222 Fax:0997-61-2812  
HP: http://www.amami-park.com/

**SUMMER CONCERT**

2019.8.25(日)  
開演13:00～ 入場無料

奄美パーク 屋内イベント広場

真輪りさ / 川上ちえみ  
琉球創作舞踊

やっとかっつ (ハンド演奏) Hau'oi AI studio (フラダンス)

Waho&敬慶女バンド (ハンド演奏)

特別ゲスト  
シンガーソングライター  
**平田 輝**

奄美島県 奄美パーク  
〒984-0204 奄美市高千穂町野間町1-13-14  
Tel:0997-61-2222 Fax:0997-61-2812  
HP: http://www.amami-park.com/

**フコ Festa コンサート**

日時: 2019年12月7日(土) 13:30～  
場所: 奄美パーク 屋内イベント広場

入場無料

奄美島県 奄美パーク  
〒984-0204 奄美市高千穂町野間町1-13-14  
Tel:0997-61-2222 Fax:0997-61-2812  
HP: http://www.amami-park.com/

**初春唄あしび**

日時: 令和2年1月5日(日)  
14時30分～16時30分

場所: 奄美島県 屋内イベント広場

日本民謡協会 奄美大会  
高田林井 クラフ

奄美島県 奄美パーク  
〒984-0204 奄美市高千穂町野間町1-13-14  
Tel:0997-61-2222 Fax:0997-61-2812  
HP: http://www.amami-park.com/

**新春寄席**

与論島公演 奄美パーク公演  
日時: 令和2年1月10日(金) 日時: 令和2年1月12日(日)  
開演: 17時30分～19時 開演: 15時30分～  
場所: 与論町砂地美術館 場所: 奄美パーク 屋内イベント広場  
入場料: 無料 入場料: 無料

奄美島県 奄美パーク  
〒984-0204 奄美市高千穂町野間町1-13-14  
Tel:0997-61-2222 Fax:0997-61-2812  
HP: http://www.amami-park.com/

**奄美パーク 春まつり**

ステージ 13:30～  
ティダスポーツクラブ  
加奈ハワイアンフラスタジオ  
奄美☆舞劇団  
朝岡明紀・島来莉朱・政木花音  
and more...

☆ひなまつり 13:00～  
出品 マーケット  
味の郷かざり 姉・irori\*  
お菓子の やまどや 華あそび yungya hingya  
marsa-jam sa-ya  
Bigdog BLANSHE  
coconut yukinohikari

13:00～  
先着400名様に  
ひなあられを  
プレゼント!!

3/1日 入場無料

奄美パーク屋内イベント広場

奄美島県 奄美パーク  
〒984-0204 奄美市高千穂町野間町1-13-14  
Tel:0997-61-2222 Fax:0997-61-2812  
HP: http://www.amami-park.com/



新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

## 2 奄美の郷ライブステージ

**うたと舞のステージ**

奄美の郷ライブステージ

令和元年 **5月26日(日)** 入場無料!

時間：13:30～15:30  
場所：奄美パーク屋内イベント広場

鹿児島県 奄美市 奄美パーク 0997-55-2333 Fax: 0997-55-2613  
http://www.amami-park.com/

**ダイ!ま〜じん 島ショー**

2019 **6/23日** 開演 **13:30** 入場無料

奄美パーク 0997-55-2333 Fax: 0997-55-2613  
http://www.amami-park.com/

**昭和歌謡祭**

龍郷町懐メロ同好会  
フラカオスタジオ  
紫乃華舞踊教室

令和元年 **9月8日**  
午後1時30分～午後3時30分 入場無料

奄美の郷 屋内イベント広場

鹿児島県 奄美市 奄美パーク 0997-55-2333 Fax: 0997-55-2613  
http://www.amami-park.com/

**奄美大島の伝統文化**

大島 八木舞り 保存会  
大島 八木舞り 保存会  
大島 八木舞り 保存会

入場無料

日時 | 2019年11月17日(土) 13:30～15:30  
場所 | 奄美パーク 屋内イベント広場

鹿児島県 奄美市 奄美パーク 0997-55-2333 Fax: 0997-55-2613  
http://www.amami-park.com/

**奄美パークパフォーマンスバトル2020 出場者決定**

奄美パークパフォーマンスバトル2020 出場者決定

入場無料

**2/9 日曜日**  
時間：19:30～18:00  
場所：奄美の郷 屋内イベント広場

鹿児島県 奄美市 奄美パーク 0997-55-2333 Fax: 0997-55-2613  
http://www.amami-park.com/

## 3 文化講演会

鹿児島県奄美パーク文化講演会  
**元サッカー日本代表 前園真聖氏**  
演題：「サッカーから学んだ人生」

高校生以下限定  
抽選で50名にサイン会と撮影会開催

**令和2年1月18日(土)**  
時間：12:30～13:40 入場無料  
場所：奄美パーク「屋内イベント広場」

前園真聖氏サイン会と撮影会について

- 8:00～11:00まで抽選券を配布します。(1人1枚)
- 正午に舞台の上のスクリーンで抽選結果を表明します。
- 抽選用紙はお持ちください。

問合せ先 | 鹿児島県奄美パーク 0997-55-2333





6 美術館

現代美術の潮流と同時  
宇宙・平和・愛の叙事詩

アートとテクノロジーと人間の未来と同時  
**松本零士&牧美也子の世界展**

7/14日 - 8/4日 田中一村記念美術館 入場無料

特別イベント：複製の心と魂のページ  
特別イベント：複製の心と魂のページ  
複製の心と魂のページ

TETSUO KAGAWA  
TORU KAGAWA  
RYO KAGAWA  
KAI KAGAWA

写真展 **一写入魂**

加川家三代でみる徳之島の肖像

2019年8月11日(日) - 9月1日(日) 入場無料

パリ奄美  
吉村英彦 絵画展

2019.12.22  
2020.1.26  
9時 - 18時00分

第6回 絵画 / 写真 / デザイン / 彫刻 観時無料

**県美展** 6.16 SUN - 7.7 SUN

-奄美関連作家-

会場：田中一村記念美術館 企画展示室

第9回 田中一村記念 スケッチコンクール 作品展

令和元年 9月8日(日) - 9月24日(日)

時間 9:00 - 18:00

場所 田中一村記念美術館 企画展示室

奄美 絵画展

会場 10x20cm - 11x17cm

時間 9:00 - 18:00

田中一村の写生展

2019.3.31 Sun - 5.19 Sun

会場 田中一村記念美術館 企画展示室

龍郷町立小・中学校 図画工作・美術科 学習発表展

令和元年 11月24日(日) - 12月8日(日)

時間 9:00 - 18:00

会場 田中一村記念美術館 企画展示室

第70回鹿児島県 図画作品(特別賞)展

約15万点の中から特別賞に選ばれた46点をご鑑賞いただけます。

2020.2.2 SUN - 2.16 SUN

会場 田中一村記念美術館



## 第6 奄美パーク応援隊について



### 1 結成目的

奄美パークの活動を支援し、魅力ある施設実現の一助とし、ひいては奄美群島の観光振興に寄与することを目的とする。

### 2 隊員数

49名（令和2年3月31日現在）

### 3 年間活動実績回数

139回 ※六調・園芸 34回

鹿児島県奄美パーク 令和元年度事業報告書

2019 リーフ第 18 号

〔発行日〕 2020 年 5 月発行

〔編集・発行〕 奄美群島広域事務組合

鹿児島県奄美市笠利町節田 1834

電話 0997-55-2333 FAX 0997-55-2612

公式サイト <http://amamipark.com/>

公式ブログ <https://ap129.amamin.jp/>

鹿児島県 ■奄美の郷  
■田中一村記念美術館  
**奄美パーク**

